



- ・平成31年 年頭のご挨拶
- ・花粉症のシーズンがやってきます
- ・シリーズ第12回 薬の使い方
- ・感染症のおはなし
- ・第三者評価の認定
- ・切れ目のない医療を提供するために
- ・お知らせ

K a s u g a i M u n i c i p a l H o s p i t a l

平成31年 年頭のご挨拶

新病院移転後から21年、開設から68年を迎えることになりました。年号も昭和・平成を過ごしてまいりましたが、今年から新しい年号に変わります。当院も地域住民の方々から信頼され、安心して受診できる医療機関となるべく、さらなる研鑽に務め、新たな飛躍を遂げねばならないと感じるところであります。

医療を取り巻く環境は日々変化しています。来たる2025年（団塊の世代が全て75歳以上となる）問題に対処するために、国は地域内で完結できる医療体制整備に重点を置き、入院病床の機能分化（高度な医療技術が必要とする高度急性期病棟、手術などの急性期疾患に対応する急性期病棟、急性期医療が終わり在宅復帰を目指しリハビリテーションを行う回復期病棟、疾患の慢性化に対応しつつ在宅復帰に注力する慢性期病棟などに分類される）を進めているところです。当院は、尾張北部の診療圏域の中にあつて、春日井市の基幹病院として、高度急性期から慢性期までの広い範囲をカバーしてきました。しかしながら、国の施策が進められる中、当院は今後急性期医療に特化し、急性期以降の回復期・慢性期医療に関しては、当院周辺の協力病院との連携ネットワークを活用して、地域で医療を完結する形の医療提供を目指す必要があります。当院1階の待合に「さくらカウンター」という入退院支援センターを開設した理由もここにあります。疾患ごとにどのような医療・手術が必要か、どれくらいの入院期間が必要か、どれくらいの費用が必要か、どのような状態になったら協力病院への転院となるのかななどの疑問に答えるべく開設したものです。患者さんだけでなく介護にあたられるご家族にも不安なく医療を受けていただきたいと思います。経験豊富な職員を配置しております。当院で全てが完結できることのほうが楽じゃないかという印象をお持ちなのは当然ですが、住民が高齢化し、病気に悩む方も増える一方ではないかという将来への危惧に備えた機能分化としての対応ですので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



院長
渡邊 有 三

病院運営は順調に推移しておりまして、昨年には高分解能・高精細画像のMRを導入し、今年は新病院移転時から20年経過したMRを新型機に更新いたします。その他にも新たな医療機器の更新を行い、常に最新かつ最適な医療を提供できるよう努力しています。昨年から当院の電子カルテを開業医の先生方にも公開し、皆様が当院で受けられた臨床検査、放射線の画像などは、共有することができるようになっています。これにより、皆様と地域の医療機関と当院が三位一体となり切れ目のない医療を継続することができ、この地域に暮らすことの安心感を皆様に提供できればと思っております。

自治体病院の使命は、地域の医療機関との良好な関係を維持しつつ、最新の医療機器を備えることができるような経営環境の構築、不採算部門であろうと提供を続けること、無駄な医療費を削減して安価な医療費で安心できる医療を効率的に提供することだと考えています。職員一丸となって、この基本方針の下、患者さんに寄り添う医療を提供できるよう頑張ります。至らない点がありましたら、遠慮なく、ご意見箱などを通じて、教えていただければ幸いです。

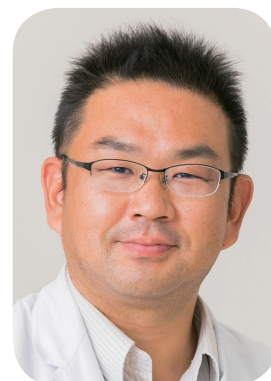
最後に一言プライベートなことを記載させていただきます。当院に赴任して22年、院長を拝命して10年の月日が流れました。今年の3月で職を辞することになります。この間さまざまな出来事がありましたが、皆様のご協力で春日井市民病院の発展に多少の貢献はできたと勝手に自己正当化しております。医師としての44年間の経歴の丁度半分を春日井の地で過ごさせていただきました。皆様の暖かいご支援があつてこそ勤め上げられたのではないかと思います。本当に有難うございました。紙面を借りてお礼と新年のご挨拶とさせていただきます。

花粉症のシーズンがやってきます

冬の寒さが本格的になってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。例年冬の寒さがゆるみ始めるころ、花粉シーズンがやってきます。

花粉症は、アレルギー物質である花粉が鼻粘膜に接着し、「くしゃみ」「鼻水」「鼻づまり」の三つの症状を引き起こす疾患です。その他にも、目や皮膚のかゆみ、鼻づまりによる不眠、集中力の低下など、日常生活や社会生活に影響を与えることもあります。

日本人のおよそ4人に1人が花粉症と言われており、特に3～5月のスギ花粉、ヒノキ花粉の飛散の時期には多くの方が花粉症に苦しめられています。



耳鼻咽喉科 部長

佐藤 雄二



スギの花



ヒノキ

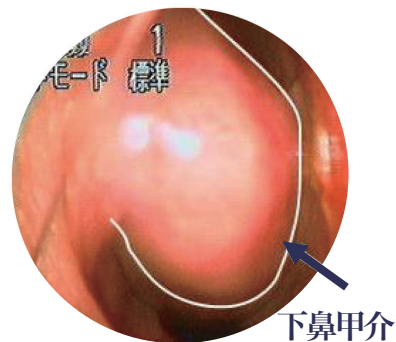
花粉症の予防と対策方法

花粉症シーズンは、アレルギー物質の花粉が鼻粘膜に接着しないような対策や予防が必要です。

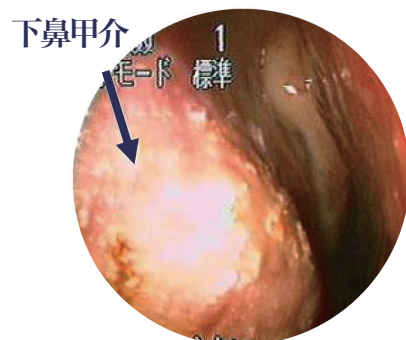
- 晴れた風の強い日は外出を控える。
- 目、鼻、口からの花粉進入を防ぐため、花粉症対策用眼鏡やマスクを着用する。
- 帰宅時は外で衣服や身体についた花粉をはらう。
- 帰宅したら、目、顔、手を洗う。うがいをする。

予防をいくら行っても症状はどうしても起こりうるものです。花粉症と言え
ばスギ花粉症がよく知られていますが、その他にもさまざまな花粉症を引き起
こす植物があるため、耳鼻咽喉科を受診し、どの花粉症なのかを知ることが大
切であり、採血によりアレルゲンを特定することができます。また、花粉症状
がひどくなってから耳鼻咽喉科を受診した場合、どうしても症状の改善が不十
分になってしまいます。花粉の飛散2週間前に抗アレルギー薬を服用すると症
状が和らいだ状態で花粉シーズンを乗り切ることができます。自身の花粉症の
状態を把握し花粉シーズンに備えましょう。

また、鼻粘膜をレーザーで焼くとアレルゲンが体内に侵入しにくくなり、花粉
シーズンでも鼻症状が出にくくなったり、症状が出ても軽くすむことがありま
す。花粉症でお困りの方や花粉症に備えたい方は、かかりつけの耳鼻咽喉科を
受診しましょう。



花粉で腫れた鼻粘膜



レーザーで焼いた鼻粘膜

シート
第12回

薬の使い方

点鼻薬はどのように使用する？

薬剤部 小川 英也

今回は点鼻薬の使い方についてお伝えしたいと思います。

点鼻薬は文字通り鼻腔内に用いる薬剤で、点鼻薬には、噴霧するタイプと滴下するタイプがあります。噴霧するタイプの中には液剤や粉末剤が充てんされている医薬品が販売されています。使い方は、どちらのタイプも使用前に鼻をしっかりとかみ、鼻水と一緒に薬が出てくることを避けなければなりません。薬が出てきてしまうと効果が弱くなり、薬を長く使用しなければならない原因になります。また、使用量は、1回につき1～2度噴霧・滴下することがほとんどで、1回に噴霧・滴下する量が多すぎると吸収される量が多くなり、全身に対する作用が起きたり、鼻の粘膜に届かず効果を発揮しないまま排泄されたりしてしまいます。

適切な量で効果を発揮させるために

噴霧タイプ

下を向きうつむき加減で噴霧し、噴霧後は数秒間上を向き薬剤を鼻腔内にしっかりと行き渡らせてください。

滴下タイプ

仰向けになるなど鼻が上を向くような姿勢をとり、容器の先が鼻の内側につかないように滴下してください。滴下後は姿勢を保ち、薬剤を十分に行き渡らせてください。



感染症のおはなし

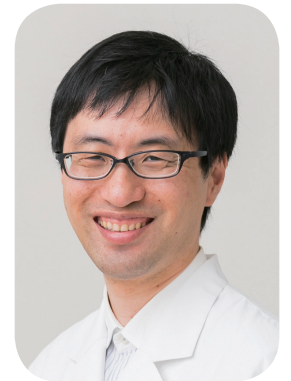
いよいよ冬も本番となり、インフルエンザや肺炎などの感染症が心配な時期となりました。さて、今回は感染症の中で、話題になっている梅毒、風疹、麻疹についてお話ししたいと思います。

梅毒

まず、最近若い女性患者が増えていることで話題になっている梅毒についてです。

昔から知られる性感染症で、梅毒トレポネーマという菌が原因となり、性行為（オーラルセックス、アナルセックスも含む）で感染する病気です。感染すると初期の症状として陰部や口にしこりができることがあります。自然と軽快するため治ったと勘違いする場合もあり注意が必要です。進行すると数年経って複数の臓器の障害につながることがあります。

抗菌薬で治療できる病気ですが、性感染症はパートナーと一緒に治療をしないと再感染したり周りに感染を広げたりする可能性がありますので、医療機関で検査を受けることをお勧めします。また他の性感染症と同様に、コンドームを使用することでの予防が最も大事です。



呼吸器内科 医長
野木森 健一

風疹

続いて、流行がニュースにも取り上げられた風疹についてです。

風疹ウイルスが原因となる病気で、咳やくしゃみを介する飛沫感染で周りに広がります。症状としては、発熱と一緒に発疹が出現しますが一般的に経過良好で4～5日で軽快します。「3日はしか」と言われる所以です。ただし、症状だけで診断することは難しく、確定には抗体検査が必要です。

この病気の一番の問題は、妊娠初期の女性が感染すると、生まれてくる赤ちゃんが難聴、心疾患といった障がいを持つ先天性風疹症候群になる可能性があることです。風疹自体は特効薬がないため、予防が極めて重要です。予防にはワクチンが効果的ですが、39歳以上の男性は予防接種を受けていない可能性があります。また1回だけ予防接種を受けた方も、抗体が十分でない可能性があります。妊娠を考えている女性やそのご家族の方は、母子手帳などで予防接種を受けたことがあるか確認したり、抗体が十分にあるかの検査を受けたりすることをお勧めします。ただし、妊婦さんは風疹を含めた生ワクチンを接種できないことに注意が必要です。検査や予防接種には保険が使えませんが、公的補助が出る場合があります。

詳しくは保健所にお問い合わせください。

麻疹・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

最後に、麻疹についてです。

昨年に沖縄で流行し、愛知県でも患者が発生した事などで話題となりました。麻疹ウイルスが原因となりますが、極めて感染力が強いのが特徴で、飛沫感染のほか空気感染（感染者と同じ部屋に浮遊するウイルスを吸い込むことで感染する）でも広がります。

また、感染したほとんどの患者さんが発病するといわれている程強力です。典型的な症状としては、まず感染してから10日程経った後に38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみといった風邪のような症状が出現します。その後3日程して、一度下がった熱が再度高熱となり、頭から足までに広がっていく特徴的な発疹が出現します。合併症として肺炎や中耳炎のほか、まれに脳炎や心筋炎という命に関わる病気になることがあります。

風疹同様特効薬がないため、ワクチンによる予防が最も重要です。1回だけでは十分に免疫がつかない可能性があるため、2回接種が勧められています。母子手帳で確認してみてください。

さて、三つの病気についてお話ししましたが、共通して言えることは、

- 妊婦さんが感染すると胎児に影響がでることがある
- 予防可能な病気である

ということです。これらの病気に限らず、すべての病気は治療よりも予防が重要です。自分自身を病気から守ることだけでなく、周りに病気を移さないこと、流行を防止することは大切です。梅毒、風疹、麻疹は決して過去の病気ではありません。心配な症状がある方、抗体が十分にあるのか、免疫がついているかどうかなど気になる方は最寄りの医療機関で相談してみてください。

第三者評価の認定

NPO 法人卒後臨床研修評価機構による認定を更新



平成30年11月1日付けで4年間の認定の更新を受けました。この認定は、臨床研修病院における研修プログラムの評価や研修状況を書面調査と訪問調査により、卒後臨床研修が適切に行われているかを評価されるものです。

今後も、「恕（じょ）」の理念の下に良い医師を育て、安全で信頼のある医療を提供できるよう卒後臨床研修の質をより一層高めてまいります。

切れ目のない医療を提供するために

平均寿命が延び、人生100年時代と言われるようになり、国においては、幼児教育から社会人の学び直しに至るまで生涯にわたる学習が重要であるとともに、高齢者から若者まで全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題であると考え、さまざまな取り組みが検討されています。長寿社会を迎えている中で、健康で活動的なまま人生を終えることができれば大変幸せです。しかし、平均寿命と健康寿命の差が、男性は約9年、女性は約12年となっています。この差は介護等が必要となる期間を意味しており、平均寿命を延ばすだけでなく、健康寿命も延ばす必要が

あります。そして、長寿社会における医療の役割は、病気の治癒や回復をゴールにすることから、個々の日常生活に着目し、医療・福祉・介護を一体化して提供することが求められるとともに、入院前からその人の暮らしを把握し、退院後も住み慣れた地域で暮らせるような支援が重要になってきました。

このような背景を踏まえ当院では、入院が決まった患者さんに対し、患者さんが病気をどのように理解しているのか、入院についてどう考えているのか、退院後にどのように過ごしていきたいと思っているのかなど、患者さんの思いを中心に、入院治療・手術に向け、看護師や薬剤師などの多職種が、患者さん一人ひとりに適したサポートを実施します。このサポートを実施するため、平成30年9月から診療棟1階に春日井市の花である「さくら」をモチーフに、桃色を基調とし、ゆったりとお話ができる「さくらカウンター」を設置しました。



看護局長

上村 睦美



医療連携室室長補佐

田辺 圭子



患者さんの思いをつむぐ「さくらカウンター」スタッフの業務を紹介します。

● 入院支援看護師

入院生活の案内をします。

患者さんの病気に対する考え方や日常の生活状況を聞き、入院前や入院中の課題、退院後の療養について一緒に考えます。

● 病棟看護師

治療や手術、入院中の過ごし方を説明します。

入院中のケアをする看護師と顔を合わせ直接話し、患者さんの入院に対する不安な気持ちを少しでも和らげ、必要なケアの検討や入院環境を工夫します。

● 薬剤師

服薬中の薬を確認します。

入院前から服薬確認を行うことで、治療を受けるために中止の必要がある薬を説明し、入院中の薬の使用方法などを確認します。

現在服用している内服薬があれば「おくすり手帳」をお持ちください。

● 管理栄養士

入院前の栄養状態を確認します。

栄養状態が不十分な患者さんに栄養補助食品の紹介や摂取方法の説明を行い、栄養状態をよくすることで、手術後の回復の手助けをします。

● MSW

医療・福祉・介護サービスの相談や退院後の療養先についての相談に対応します。

退院後の療養先を見据えた入院をサポートします。

● 事務職員

医療費や各種制度についての相談に対応します。

利用できる制度を知ること、入院前から必要な届出をするサポートをします。

さくらカウンターは、患者さんに安心して入院生活を過ごしてもらうために

- 入院前に患者さんの状態を把握し、入院に対する不安の解消を目指します。
- 病棟看護師と連携を取り、患者さん一人ひとりに適した入院治療及び看護が提供できるように努めます。
- 退院後の生活や医療・福祉・介護に関する相談などに対応します。
- 患者さんが安心して入院し、安全に治療や検査が受けられるように、各部門と連携を取りながらサポートします。

入院に際して、心配なことがあれば、さくらカウンターの看護師へご相談ください。

お知らせ

● 病院ホームページのリニューアル

患者さんや地域の方及び医療関係者等のホームページを利用される皆さんが、情報を簡易に探すことができるホームページを目指すとともに、パソコンだけでなく、スマートフォンなど様々な環境で利用することを想定し、デザインやページ構成・内容を見直しました。また、高齢者や障がい者も使いやすいデザインであるユニバーサルデザインを取り入れたホームページにリニューアルしました。

リニューアルに伴い、一部 URL の変更がありますので、「お気に入り」や「ブックマーク」等に登録されている方は、変更をお願いいたします。

今後も更なる情報の充実・利便性の向上に努め、ホームページを利用する方が情報を簡易に検索・取得できるようホームページ作りを進めていきます。



● 市民公開講座等のイベント情報

平成 30 年 12 月 8 日（土）に総合保健医療センターにて、「口から始まる健康長寿」をテーマに第 56 回市民公開講座が開催されました。歯科口腔外科の堀部医師らが“オーラルフレイル（口の機能の衰え）“について、加齢に伴い食べたり飲んだりすることが一般的には難しくなると言われておりますが、口腔ケアをしっかりと行うことで健康寿命を伸ばすことができるとともに、口の中の病気だけでなく身体の病気予防にもつながるなど、口腔ケアの大切さについての講演をしました。講演前には血糖値の測定など健康チェックコーナーを実施し、多くの人でにぎわいました。



次回の市民公開講座は、平成 31 年 2 月 16 日（土）に東部市民センターにて「白内障・緑内障・めまい」をテーマに眼科と耳鼻咽喉科の医師による講演を実施します。また、講演前の健康チェックコーナーだけでなく、ピアノ演奏やゴスペル歌唱も実施いたします。詳細は、広報春日井や当院ホームページをご覧ください。

